

精華人

SEIKAJIN

特集 鼎談「出会い」をつくるひとたち

GALLERY&SHOP VOU 棒オーナー 川良謙太さん

スチンドグラス作家/アトリエショップ scapio オーナー 西富なつきさん

HITODE フリーランスグラフィック・ウェブデザイナー 西小路瑠子さん

卒業生インタビュー・寄稿

ものごとあとろえ一頁(いちへいじ) 永田千晃さん

お好み焼き・キタヤ店主 水野(古橋)三代子さん

Yinyang 運営/ヨウインストラクタ 森島 梓さん

日本画家/デザイナー 大串亮平さん

木野会「在学生支援事業」のご報告

01

07

09

11

12

13

変化を味方にする
はたらきかた

鼎談

「出会い」をつくるひとたち

2022年も、新型コロナウイルスによる

社会への影響は続いている。

人々の移動がままならないなかで、

人と人が出会う場所を、

維持するひと、新しくつくったひと、

自由に行き来するひと。

変化を味方につけ、

自分らしいはたらきかたをするひとたちの話。

GALLERY & SHOP
VOU/樺 オーナー

川良謙太 さん
Kenta Kawara

スタンドグラス作家/
アトリエショップ scape オーナー

西富なつき さん
Natsuki Nishitomi

HITODE
フリーランス グラフィック・ウェブ デザイナー

西小路瑠子 さん
Yoko Nishikoji



いまの仕事をはじめまで

——入学年やコースは違いますが、みなさんデザイン学部の卒業生です。現在のお仕事はそれぞれ違いますが、どのような経緯で今のよう働き方になったのでしょうか？

西小路 私は、新卒で東京のグラフィックデザイン会社に就職。退職後、語学を勉強するため、1年ほどアメリカに行きました。帰国後から現在まで、フリーランスのデザイナーとして、グラフィックやウェブデザインの仕事をしています。

フリーランスになるのを決意したのは、海外の人たちのライフスタイルを見た影響も大きかったですね。会社員でも毎年1ヶ月ほど休みを取れるから留学に来たと聞いて、日本では1日の有給すら取りづらいのに！と驚きました。あとは帰国後、東京にも京都にも友だちがいるので「どっちにも住みたいな」と思って。フリーランスになれば、自由に移動できるやんって気づいたこともフリーランスになった理由のひとつですね。

川良 僕は音楽が好きで、もともとミュージックビデオをつくりたいと思い、デジクリに入りました。当初は映像制作やVJ(※1)をやっていたんですけど、4年生のゼミで、同世代作家の作品を扱うお店をつくることに。当時は、「周りのみんなのほうが面白いものをつくるな」という悔しさもあって、けっこう悩んでたんです。でもお店づくりをはじめたらしくりきて、どんどん楽しくなってきた。卒業後、精華大のサテライトスペースの運営(※2)で働きはじめて、そのあと自分のお店を持ちたいなと思ってつくったのが「VOU(樺)です」。

西富 私は卒業後に、studio(※3)で働いていたんですが、当時は作家さんを応援する側というか、一緒に展示空間や売り場をつくっていくということが創作のよさを感じてました。だから、「自分も何かつくりたい」という欲はそんなになくて。

その後、studioの活動が終了することになって、次はどういう仕事をしようと考えたときに、今度はやっぱり自分も何か「つくりたいな」と思ったんです。

もともと「デザインを専攻していたこともあって、何か「自分の手で作れるもの」がいいなと思って、陶芸や吹きガラスなど工芸系の体験講座に行きました。ステンドグラス制作を体験したときに、この技法とデザインには類似点があるなと。やってみて、すごくしっくりきました。それで習いはじめました。当初は、別に違う仕事をしながら制作してはいたんですが、昨年の10月にアトリエショップをオープンしてからは、自分の作品の販売をメインに、植物の販売などもしています。

——ちなみに、みなさんはもともと知り合いましたか？

川良 西小路さんは、コースは違うけど同級生で、西富さんは、うちの店で個展をやってもらったことがあります。

西小路 フリーになってから、VOU(樺)のDM制作を依頼してもらったこともありですね。西富さんとは初めましてです。

西富 川良くんとは、scapのスタッフだった時代に、私が個展しているところにお客さんとして来てくれたときからのお付き合いですね。雑談しているときに、studioで働いてたんですよって話になって。

川良 studioの人たちとほぼ交流なくscapのが引き継いだので、しばらく前任者の方宛にDMとかが届いて、すごく珍しいお名前の方やったんで印象に残ってたんですが、それが西富さんの旧姓だったっていうのがそのとき判明したんですね。びっくりしました。

活動拠点を選んだ理由

——活動の拠点に『京都』を選んだ理由ってありますか？

西富 私は、生まれも育ちも京都で、京都を出たことがないんですよ。物件も、探し回って見つけたのではなく、

今の場所で私の前にお店をやっていた友人が声をかけてくれたことがきっかけ。強い理由があったわけではないですね。メインの取引先も京都が多いので、流れに身を任せていたら今の場所に決まったという感じでしょうか。

川良 僕は、東京に新店することも考えたんですが、なんとなくの街の雰囲気しか知らないなと思って。その点京都は、僕も生まれ育った街なので、人の流れや雰囲気は、それなりにわかっている。あとは、「京都にこういう店があったらいいな」というイメージが湧いてきたというのも大きかったですね。あえて『京都』でやったほうが面白いんじゃないかな、必要としてくれる人がいそうやなっていうのは、けっこうありました。

——実際どうですか？

川良 京都って、街の規模に対して美大の数が多くて、アーティストや学生の数も他の地域に比べてかなり多い、変わった街だと思っんです。でもそのわりに、発信する場所が少ない。特に同世代の発信拠点みたいなものがぜんぜんなくて。だから、それを担えたらという気持ちもありました。最初は精華大の同世代コミュニティだったけど、どんどんつながりが増えて、今は他の大学や世代も跨いで、いろんな人たちとの交流があります。「VOU(樺)」の存在が、ひとつのムーブメントになっていて、京都で作品をつくる人たちのモチベーションになってる部分もあるのかなと思っています。

西小路 フリーランスになって2年ほどは、大阪のシェアオフィスに通ってました。最初は関西にツテがなくて、なんとなく京都より大阪のほうがビジネスチャンスが多いかなと思ったのと、友人がちょうどそこを抜けるんだけど「入らない？」って声をかけてくれて。大阪である程度つながりができ、東京や京都などほかの地域の仕事も増えてからは、拠点を京都に移しました。当時は実家住まいで、家で作業しつつ、週3、4日はコワーキングスペースで作業というのを続けていたんですが、新型

※1 video/visual jockeyの略。クラブやライブハウス、野外フェスなどで、音楽に合わせて映像を流し、空間を演出する。事前作成の映像を流す場合もある。素材を組み合わせて即興でつくり上げる場合もある。
※2 kara-S(カラス)は、四条烏丸にある京都精華大学の学外サテライトスペース。展覧会やワークショップ、イベントなどを行う「ギャラリー」と、アートグッズの販売を行う「ショップ」の2つのスペースがある。
※3 現在のkara-Sの場所に以前あった精華大のサテライトスペース。



コロナウイルスの流行と共に利用しづらくなって。最近一人暮らしをはじめたので、今は基本的にずっと在宅で作業しています。

屋号に込めた思い

— お店の名前や活動名など、みなさんの「屋号」はどうやって決められたんですか？

西小路 私の「HITODE (ヒトデ)」というのは、「人と出会いはながらデザインする、いろんな人と関わりながら仕事ができたらいいな」という思いからつけました。実際そんなふうには仕事ができているので、嬉しいなと思っています。

西富 [scape (スケープ)]は、風景を意味するlandscape (ランドスケープ)と、scape自体には、花茎(かけい)という意味があります。「いろんな風景を(私の作品で)つくってあげたらいいな」というのと、植物も扱っていることもあって、「花を咲かせたい」という思いをこめています。

川良 「VOU棒」の説明はいつも困るんですよ。

— ものを売る場所としてではなく「人が集まる場所をつくりたい」という視点は、川良さんと西富さんの活動で共通しているところですね。

西小路 私は、場所をつくる側じゃなくて、利用する側だけど、旅行先や買い物、食事するお店を選ぶときに、「あの人がいる・やってくるから」というのを重視することが多いな。お二人のお店のお客さんたちも、素敵な人がやってくるからという理由で通っている人も、多いんじゃないかなって思います。

制限されて見えた繋がり

— コロナ禍による緊急事態宣言の発出など、家で過ごすことを余儀なくされる期間もありました。仕事への影響はどうでしたか？

川良 僕は、すべての状況が悪くなりました。お客さんがお店に来れないので、閉めるしかない。でも、商品を売らないと立ち行かないので、シンプルな解決策として、通販サイトを立ち上げました。

VOU棒はこれまでずっと、通販サイトでの販売はやらずにきていたんです。直接問合わせがきたときには、個別に対応してましたが、基本的には現場主義でやってきました。でも、さすがに難しく、通販サイトは、苦肉の策でした。

はじめた最初の月はめちゃくちゃ売れました。飲食店がクラウドファンディングをはじめたりして、みんなが応援しようという気運があったじゃないですか。購入には、そういう「支援の気持ち」もあったと思うんです。

VOUは当て字です。原始的な武器、ものの原点というか、持っただけで単純に強くなれるとかいう感じです。最近、もしお店にコピーを付けたら「強くなる」かなって思っていました。

一同笑。

— 店名を思いついた経緯は？

川良 アーティストとのプロダクト制作は、商品にいたときからやっていて、当初は、自分のレーベルみたいなものを立ち上げようと思っていました。みんなでご飯を食べながら、そういう名前がいいか話していたときに「棒」が出てきて。そこにいた全員が「めっちゃいいやん」って盛り上がりつつ決まりました。他の候補は「力部屋親方」とか(笑)。

西富 なんか「強さ」を求めてたやね(笑)。

川良 さんが扱ってる商品は、ファンシーなアイテムが多くて、僕が個人的に好きな雑貨とはちょっと違った。だから、面白いアイテムを扱っている、(ゆくゆくお店にするなら)どちらかという男の人も来やすい名前がいいなっていうのがはじまりだったので、なんか強そうな名前がいいんじゃないかっていうのもありました。

— でも、「棒」というのは、マッチョには見えない、ポツポツがあります。

西富 可愛らしさもありますよ。

— 子どもっぽさとか、インディペンデントなイメージなんかもあって、今のお店にぴったりな感じがしますね。

川良 はじめから、なんとなくしっくりきたんですよ。あと、漢字一文字の店名っていうのは、あまりなかった。その後、韓国や台湾のカルチャーが流行する、アジアブームみたいなものがきて。漢字のキャップをつくったのも早かったし、タイミングもよかったなって思いました。

もちろん、売りに上げるにもだいぶ助かったんですが、それ以上に、こういう反響があったこと自体が励みになったというか、こういう状況でも、応援してくれている人はいるんやなって感じましたね。

西小路 お店はやっぱり影響大きかったんやね。

川良 まあ、どうしてもね。

西富 外出したらあかんっていう時期もあったしね。キツかった。

西小路 そのころ西富さんは、どうでしたか？

西富 私もオンラインショップに商品を掲載しました。コロナになる前からやってはいたんですけど、あまり力を入れてはなくて。やはり展示会などの対面販売をメインにしてたんです。だけど、「不要不急の外出は控えましょう」と言われるようになり、世の中が大変なときに、自分のやっている活動って「何の役に立つんやろ」とネガティブな気持ちになったことありました。

でも、(自分の活動制作は)不要不急かもしれないけどと思いつつ、オンラインショップに作品を掲載してみたら、けっこう売れてさっき川良さんが言っていたように、きっと応援の気持ちとかもあったと思うんですけど、「このままオンラインショップでやっていけるんちゃう(笑)」って

す。ロゴとか、商品と一緒につくっているデザイナーが文字を使った表現の達人なんで。ビジュアルとセットで「VOU棒」という名前が広まったのかなって思いますね。

「人と会える」場所をつくる・訪れる

— 西富さんは昨年10月にアトリエショップを開業されましたが、時世的にも実店舗のスタートは勇気が必要だったのではと思います。踏み切ったきっかけは？

西富 ひとつは、やれることはなんとなく見えてきたけれど、今までと同じ活動のしかたではあかん。なにか新しいことをはじめないとジリ貧やなって感じていたこと。もうひとつは、先ほどもお話した、もともと今の場所でお店をやっていた友人の存在ですね。

以前から制作のことや、ワークショップをやりたいって話を相談していたので、「ここを借りてやってみたら？」と背中を押してくれました。近隣のお店の人たちとも知り合いだし、何より、初めて個展をさせてもらった場所でもあったので、私にとってすごく思い入れの深い場所だった。正直、家賃などの固定費がかかることによる金銭的な不安はありました。でも、立地も店構えもいいし、「ここで(お店を)やらへん理由がない」と思って、挑戦することに決めました。

まあ、最近冷静になって考えてみると、「やらしかたかな(笑)」って思いましたね。勢いで借りてみたけど、お店って、場所が完成したら終わりなわけじゃない。続けていくことが大事だから、今後の展開を真剣に考えていかないとあかんってあらためて思いました。

— 昔から、いつか自分のスペースを持ちたいと考えていたわけではなかったんですか？

西富 ずっと働いていたときに、店舗運営の大変さは身に染みていたんです。だからそのあと、全然違う仕事に就いて。でも、当時の楽しさや面白さも忘れてはい



思っちゃうくらいのリアクションをもらったのは、大きかったですね。

私がつくっているものが、この状況下で少しでも誰かの、何かのプラスになってるのかなって思ったら、そのことで制作意欲が出てきました。金銭面が良くなったとは言えないですけど、自分の中で制作する意味みたいなものが見つかったというか、確かめられたかなって思います。

西小路 私はそんなに影響はなかったというか、あまり変わらなかつたです。

西富 (商品の販売を)ウェブのほうに切り替える人も、多かったですよね。

西小路 元からウェブの仕事もけっこうあったけど、なおさら増えた気がしますね。仕事をやる環境自体も、そもそも前からリモートで仕事してたので、世の中も一気に変わり始めたなという感覚でした。そういう意味では、支障は全然なかったです。仕事も減ることはなかったかな。ただ、コロナが流行りはじめたばかりのころは、クライアントの制作会社や、リモートの体制を整えるとかで少し仕事が止まったりはしていましたね。でも、私自身は特に変わらず、影響はそれぐらいでした。

日時：2021年12月21日（火）
会場：ものこととりえ 一頁（いちページ）
当日進行・文・編集：南部沙智子
写真撮影：酒谷薫（SARUGRAPH）

※4 ワーク+パッケージの造語。自宅や職場ではなく、リゾート地や地方でリモートワークを活用し、普段とは異なる場所で働きながら、休暇を楽しむ過ごし方。

働く環境への意識変化

——コロナ禍以降、働く環境に対して意識の変化はありましたか？

西小路 プライベートも仕事も、全部家の中でやることになったので、「家を整える」ようになりましたね。みんなやはりはじめたことかもしれないけど、観葉植物を置いて水をやるとか、豆からコーヒーを淹れたりすることで、けっこう気持ち切り替えられる。作業に目処が立ったらお昼ご飯をつくって食べるとか、昔はあまりできていなかった、生活のリズムをつくれるようになりました。

あとは、フリーランスの友だちを呼んで、うちで一緒に仕事をするとか、家の近くの鴨川までちょっと行ってコーヒーを飲むとかの休憩を挟んだりして、気分転換をしています。フリーランスでヨガを教えている友だちが家に来てくれて、一緒にヨガをやることもあります。以前より運動もするようになりました。そういう意味で私は、コロナがきっかけでポジティブになった部分もあるのかなって思います。

西富 開業の話と重なりますが、アトリエショップをオープンさせたのは、まさにコロナ禍になったことが大きかったですね。活動の中心だった展示会や催事が中止や延期になり、思うように動けなくなりました。でも、その展示会の予定などがなくなったことで時間ができたんです。コロナ禍によって、今までの活動を振り返り、棚卸しする機会を得られました。だから、友人から声をかけてもらったことも含めて、いろんなタイミングがうまく重なったことで、開業に踏み切れたと思います。

現時点ではまだ、きっかけをいただいたに過ぎないのですね。コロナ禍をバネにできた、この選択が正解だったと言えるようにしていきたいですね。

川良 僕は今もこれまでも、仕事と生活の境目がなくなっている状態でやってきているので、仕事に対するストレスはないです。仕事について考えるのは楽しい。でも、店

コミュニケーションを鍵に これからを見据える

——これからの世の中がどうなっていくか、まだまだわからないところもあると思いますが、今後の活動や、目標についてお聞かせください。

西小路 まず、現状を維持していくこと。そして今年こそ、コロナ禍でも継続して依頼してくださいという遠方のクライアントの方たちに、会いに行きたいです。しばらく会えていなかった方たちと、直接コミュニケーションを取る時間をつくりたいなって思っています。長期的な目標としては、オンラインでの仕事が普及したよさもあると思うので、いつか案件受注で全国制覇できたらなと思っています（笑）。もちろん直接行くことができればなお嬉しいですね。

西富 私と同じく、時代と逆行するようなことかもしれないけど、人と直接会ったときの情報量ってすごくあると思うんです。それでアイデアが生まれることもあるし、ワークショップとか、以前からご要望のあった、購入した作品を部屋に飾るときの環境づくりのご相談などにも、応じていけたらなと思っています。これからは、人と出会う場所をなんとか続けていきたいと思っています。**川良** 僕も正直、今年の野望みたいなことはなくて、とにかく「毎日を一生懸命生きる」ことが大事だなって感じています。

そもそも、お店にお客さんが来てくれるって、すごくありがたいことなんですよね。コロナ禍になって、全然人が来ない日もあったから。あらためて、お店に来てくれる、一人ひとりを大事にしようって、以前にも増してお客さんと話すようになりました（笑）。原点にかえるというか、シンプルに、お客さんと一緒に楽しめるようなことを提供していきたい、面白い商品を企画していきたいって考えています。

から離れたくなって思う瞬間はめっちゃありますね。目の前にお客さんがいると、やっぱり気になって考えに集中できない。そういうときは、ちょっと近所の喫茶店に出かけて、そこでお店のことを考えたりすることはあります。そもそも喫茶店に行くのが好きなのもありますけど。あとは、一切仕事の話をしたくないときは、地元のお客さんと飲みに行きますね。かなりリフレッシュできますね。

仕事環境も関係も、自らできっかけをつくる

——西小路さんは、「ワーケーション」※4を取り入れているそうですが、どんなふうにお仕事されているんですか？

西小路 土日に旅行に行くだけでなく、平日を含めて一週間ほどその地域に滞在して、仕事と観光を合わせて楽しむという感じですね。好きな場所にただ行くのではなく、企業がはじめたプロジェクトに参加しました。対象の地域に行って、そこで体験したものをSNSに投稿すると、ホテルの滞在費を少し出してもらえます。そもそも、ずっと家で仕事をしているので、何か変化をつけたいなと思っていったときに、このプロジェクトを知って。対象地域が複数あるので、2021年は何箇所か行きたいという目標を立てていました。

——それは、地域の仕事をしたりもするんですか？

西小路 地域の仕事をするのはなく、観光や食事の様子を自分のSNSで紹介するくらいです。コロナの流行で、ワーキングスペースの利用もしばらくなくなり、家でずっと仕事をせざるを得ない状況が続いて。気分転換しに行きたいけど、仕事もしないといけないというなかで、ちょうどいいプロジェクトでした。知り合いのインバウンド系の事業をしていた会社が新しくはじめたものです。アメリカから帰ってきて、英語を話さないとい

スタンドグラス作家/アトリエショップ **scape** オーナー
西富 なつき（にしとみ なつき）
2002年度 芸術学部デザイン学科ビジュアルコミュニケーションデザイン分野Ⅱ類 卒業
URL <https://nishitomi-natsuki.tumblr.com/>
[Instagram @scape_glass](https://www.instagram.com/scape_glass)

京都を拠点に、スタンドグラス技法を用いて平面から立体作品まで幅広く制作する。ヨーロッパやアメリカの色ガラスや薄い透明ガラスを使用して、花器やオブジェ、アクセサリーなど日常を彩るアイテムの提案を行う。2021年、アトリエショップ「scape」オープン。



【scape(スケイプ)ガラスと植物】京都 御所東にあるアトリエショップです。スタンドグラスの工房を併設した、ガラスと着生蘭などの植物のお店です。店の奥のスペースでスタンドグラス制作を行っています。（定休日：木曜日＋不定休、OPEN 12:00-18:00）

アトリエ兼レンタルスペース
ものこととりえ 一頁（いちページ）
〒612-8411 京都市伏見区竹田久保町2-6（旧永田製作所）
URL <https://atelier-1-page.jimdofree.com/>

築50年超の鉄筋コンクリート3階建ての建物は、元金属プレス加工とロートアイアン事業の会社事務所兼住居。会社廃業の後、2016年から1～2階をアトリエ兼レンタルスペースとして提供をはじめ。1階は製本道具のある図書室風アトリエ。製本、梅仕事などものづくりの場としてワークショップを開催している。2階は20畳ほどのレンタルスペース。これまで、絵画教室、ヨガ、落語会、講演会などにも使用。「もの」と「こと」を通じて、人と楽しむ「文化屋」を目指している。



GALLERY & SHOP **VOU/樺** オーナー
川良 謙太（かわら けんた）
2009年度 デザイン学部ビジュアルデザイン学科デジタルクリエイションコース 卒業
URL <http://voukyoto.com/>
[Instagram @voukyoto](https://www.instagram.com/voukyoto)

2010年8月、京都精華大学から業務委託を受けて「京都精華大学kara-S」を運営。2015年5月、京都四条烏丸の路地裏にGALLERY & SHOP「VOU/樺」をオープン。2019年10月、「VOU/樺」を四条河原町から住宅地に入ったところにある、3階建てビルに移転。



（左）アーティストやクリエイターと共に、オリジナル商品の企画、制作を行っている。（右）併設しているギャラリーでは、定期的にアートの展覧会やイベントなどを行っている。

HITODE フリーランス グラフィック・ウェブ デザイナー
西小路 瑠子（にしこうじ りょうこ）
2009年度 デザイン学部ビジュアルデザイン学科グラフィックデザインコース 卒業
URL <https://hitode.info/>
[Instagram @hitode_ny](https://www.instagram.com/hitode_ny)

1988年、京都生まれ。2010年、京都精華大学デザイン学部ビジュアルデザイン学科グラフィックデザインコース卒業。大学卒業と同時に上京し、広告制作会社で5年間グラフィックデザイナーとしての経験を積む。2015年、より多くの人とコミュニケーションをとり、自分の行動範囲や視野を広げるため1年間カリフォルニア州サンディエゴへ語学留学。2016年10月、関西でフリーランスとして活動を開始。



（左）KBL JOURNAL:「Kyoto Beer Lab」通信のデザイン。（右）奈良県吉野町でのワーケーションの様子。宿泊先から川を眺めながら仕事。



寄稿

一頁の履歴書

ものごとあとりえ一頁いちぺーじ 永田千晃さん

「ものごとあとりえ一頁」を始めるまで

京都の大学で図書系職員として勤務しながら、自宅併設のアトリエ兼レンタルスペース「ものごとあとりえ一頁（いちぺーじ）」（以下、「一頁」略称）を運営しています。私が卒業した2002年ごろは、いわゆる就職氷河期でした。大学卒業後、地元の靴のメーカーに就職したものの社会生活になじめず数ヶ月で辞め、父の経営する金属関係の製造業を手伝うようになりました。休日に図書館に通うことが増え、その後、司書の仕事をしたいと思うようになり、文科省指定の大学へ講習に通い司書資格を取得、2006年から大学で司書をしています。

「一頁」には製本道具が割と揃っています。今、1階は、それをメインとしたものづくりのアトリエ風の空間になっています。ヨガの会は、2階の広いスペースで2021年の夏にスタートしました。私がそれまで指導を受けていたインストラクターさんに来て頂いて、少人数で開催しています。

これからの予定では、講師をお呼びしての、日本酒講座、陶芸体験があります。製本関連の展示会、上映会なんかもしたいところです。それから今、実はタロットリーディングの勉強中なので、タロット占いも提供したいと思っています。手描きイラストで活動している友人と印刷屋の友人とを巻き込んで、販売も視野に入れたオリジナルのタロット製作も始めています。

逆境から生まれた新たな可能性

このコロナ禍では、人を集める側の立場として、分からないことや不安が多く、2020年は思うように活動が出来ませんでした。1年に1〜2回開いていた落語会も、製本の会もままなりません。開催日を決めては、直前に延期、再度日程の調整することを繰り返すような年でした。焦りを感じつつもそれが「これからの当たり前」と思えるよう努めてきた気がします。

コロナ対策としては、入口に消毒用アルコールと非接触体温計を設置したり。参加者の人数を少なくし、マスク着用、ハンカチ持参を促し、トイレや水回りにタオルを置かないようにしたのは、どこのスペースも同様かと思えます。オンラインについては、ものを作るイベントには伝わりにくい部分が多く、積極的に導入しませんでした。が、昨年開かれた「paperファースティング」の講座は、対面とオンラインとのハイブリット開催をすることが出来ました。

直接スペースを使う活動ではありませんが、共通するテーマでのオンラインミーティングに参加することは、アフターコロナに備えた広報活動になると感じています。例えば、製本・資料保存関係では、緊急事態宣言解除後にオンラインを通じて知り合った方に訪れてもら

「一頁」で、大学に勤務しながら週末を利用しイベントやワークショップの開催や、レンタルスペースの提供をし始めたのは2016年頃。この頃、家業の会社の廃業や両親の引越越しで、それまで事務所兼自宅として使っていたスペースがはっきりと空いてしまったことがきっかけでした。

「一頁」のある建物は、築50年を超える鉄筋コンクリート3階建て。15年ほど前に主にショールームとしての活用を想定し改装したものの、整備が行き届かないまま10年ほど前に会社は廃業。1階と2階の一部は、がらんどろになりしました。

この土地に移り住んできて、小さな金属加工の工場を始めた曾祖父（言ったことはないけど）や建物を建てた祖父のことを想うと、空いたスペースをそのまま放置することもできず、なにかに活用しなければという思いに駆られていたのです。行政の開催している空き家活用の相談会やイベント、ビジネスセミナーにも通いましたが、管理人となる私が平日は大学勤務で不在であったり、特殊な間取りだったり、お手本に出来るものや、外部に管理を任せるといったことは中々難しいものでした。

試行錯誤のなか始まった運営

「うーん、もうこれは私が何かやるしかないのか……」巷では、空き家、空きスペース、コワーキングなど「場」への需要が増している時期だったことで、まずはレンタルスペースが浮かびましたがセキュリティ面の条件が揃わず、レンタルスペース検索サイトへ登録するだとかの広い宣伝は今もしていません。

2016年から、小規模なイベントを行うようになりました。近所の仲の良いお店屋さんや、友人に来てもらうような程度です。今でもほとんどがそうですが、私に出来ることってなんだろう。人前に出ることが苦手で臆病な私が一歩踏み出すべく、考える日々。

2008年から個人的に続けて来た「梅仕事（※1）」をみんなで作ったら楽しいかも。以前ワークショップに参加して作り方を教わったあずま袋を作るのはどうだ

える機会にも恵まれました。コロナが終わったら、一緒にやってみよう！といった話題が、たくさん出てきます。関東方面の方々と、しかも複数人で出来たのは、オンラインの良さだと思えますし、コロナがなかったら、このような機会が皆わざわざ持つことはなかったと思います。ともすれば閉塞感を生みかねないコロナ禍でありながらもモチベーションを高められる貴重な機会になっていくし、コロナ終息をただ待つわけではなく、そこに向かって今できることを諦めないで続けたいものです。

「一頁」を通じて変化した自分

「一頁」を運営するようになって、大学の仕事とプライベートだけだった日常に、その両方をつなぐような時間が加わりました。イベントの企画、ホームページやブログ、SNSの更新に外部サイトへの寄稿などに費やす時間は、大学の仕事以外の時間のほとんどを占めるようになり、外出先で出会った人とも、「一頁」を知ってもらえるような会話ができないかと意識するようになりました。お陰で、「梅」に関わる人、製本や印刷をはじめとしたものづくりに関わる人、落語に関係する人、ヨガにアロマと、さまざまに私の好きな分野で活動する人たちの知り合いが増えました。気が付けば、人前に出ることや持続すること、他にもたくさんある苦手なことが楽しいと思えるようになっていました。私にとっての「一頁」は、社会と繋がりがながら自分自身と対話する場です。

「一頁」で実現したこと

気の多い私が、複数のコンテンツを持続させることが出来ているのは、どのコンテンツにも、個々に活動し続ける人との関係性があるから。その方たちと、今後も関わり続けたい循環を生みたいという思いが、私の原動力になっていきます。特にものづくりや表現活動をする人たちと関わり続けたい思いの根底には、精華が大きくあります。

ろう。と、私の好きなものをおすそ分けするかなのようなイベントから始まり、講師をお呼びしてアロマセラピーの講座をしてもらったり、その講師の知り合いの方がスペースを借りて下さったりする内、落語好きの幼馴染から、好きな作家さんの落語会を開きたいと相談を受け、20畳ほどの2階のスペースで開催することができました。落語会初回は2017年。当日は40名ほどのお客さんで、会場はいっぱい。作家さんの張りのある声、多くのお客さんの笑い声、生演奏の出陣子の太鼓や笛、三味線の音が、これまでがらんどろだった部屋に鳴り響く。これまでうちに訪れることのなかった人たちの熱気が溢れる。不思議な光景に見ると共に、お腹の奥の方から何とも言えない嬉しさがこみ上げる、思い出深い体験でした。

また、その幼馴染の落語仲間には、カレー屋さんをしてもらったこともありました。元々、仕事をしつつレンタルカフェで週一カレー屋をされていたことがあったのです。

ホームページは、この時期に慌てて無料サービスを利用して作りしました。「一頁」の情報は他には、友人の編集するフリーペーパーや関係する企業サイトへの寄稿、フライヤーを店舗に置いてもらったりして発信しています。

現在「一頁」では、月1回定期のワークショップとして、製本やヨガの会を開催しています。大学で司書業務を通じて私は、資料保存（※2）に興味を持つようになり。曲がりなりにも芸術学部卒。手を動かすことが好きな私は、特に本の修理に興味をもち、勤務する大学の図書系職員の有志で開かれていた勉強会「資料保存ワークショップ」に参加しました。主に図書館の破損した本を直すことを学ばせてくれました。この勉強会から派生し、図書館員を対象にした修理のための製本の勉強会を資料保存ワークショップ「番外編」と称して、2019年から「一頁」で開催しています。製本には、プレスやかがり台といった特殊な道具も要するのですが、知り合いを通じて、使われなくなった道具類を多数寄贈頂いたことで、「一

駅近で生活に便利ということだけが取り柄のこの土地。近所に大学はありながらも、これまで文化的なことに触れられる場所がなかったのは、興味のある人がいない土地だと、私自身が思い込んでいたのかもしれません。この「一頁」から、今まで周囲になかった文化的なことを発信して、人の流れに変化を起すような「文化屋」にしていきたくて、どちらかというと、この土地を知らない人に訪れてもらえるようにしたいのです。誰かの、何かの、一頁になれたら。そして、その一頁一頁が積み重ね、綴じられ、1冊の「一頁」という本のようになればいい。ちょっと、とんちのようですが、本に関わる身としてそのような思いを込めて「ものごとあとりえ一頁（いちぺーじ）」と名前にしました。また、英語の「page（ページ）」が「頁」と漢字で書くことが出来ると知った時に感じた、意外性とおもしろみも含ませて。

まだまだコロナによる課題もあるし、敷地内の建物の相互関係からいつまでこの形態で運営できるかは、良くも悪くも未知数ですが、今後も模索しながら、「ものごと」と「こと」を通じて「人」と出会い、循環を生む場作りをして行きたいです。

最後に、今回この「精華人」の巻頭ページの鼎談では、「一頁」を会場にご使用頂いたことへお礼を述べたいと思います。在学中の私は、向いていないと中退を考えた時期もあり、自由かつ奇抜なイメージもあつた精華の卒業生であることを隠すような長い年月がありました。引け目も負い目も感じて来た私に、どういう巡り合わせか、卒業後20年の節目にこのような形でまた母校に関わることとなり、なんとというか、恥ずかしい忘れ物を取りに行くような気分でもあったのですが、図らずも「一頁」に込めた願いである、出合いの循環も叶ったわけで。鼎談者の皆さんをお招きした瞬間、それまでの緊張は途端にほどけて、年代も違い初めまじりの方々ばかりだったのに、知った人たちの集まりのように懐かしさにも似たあたたかい安心感に私自身が包まれました。それが、「精華」という繋がりがなにかもれない、と思えた時間でした。

永田千晃（ながた ちあき）

2001年度 芸術学部デザイン学科テキスタイルデザイン専門分野 卒業

URL <https://atelier-1-page.jimdo.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/co.umehouse>

Blog <https://atelier-1-page.blogspot.com/>

※1 母の実家は日本海側最大の梅の産地、若狭の三方。祖母が農家をやめてから放置された梅畑があるので、そこでできた実を収穫から行う梅仕事を2008年にスタート。現在は地元役場を通じて仕入れた梅を使用。若狭梅から季節仕事の楽しみを味わってもらいたい思いで始めた「一頁」を代表するイベント。

※2 図書館で所蔵する本や資料の保管環境の整備や破損・劣化した資料の修理。

大串 亮平 (おおぐしりょうへい)
1998年度 美術学部造形学科日本画専門分野 卒業
Instagram @ryoheioogushi.japan



日本画を起点に、 表現を更新しつづける

日本画家/デザイナー 大串亮平さん

日本画との出会いと、京都での生活

京都で生まれ、5歳のときに、父親の地元である佐賀に引っ越しました。
日本画に関心を持ったのは、中学生のころ。福岡で開催されていた浮世絵の展覧で、浮世絵を見たんです。版画ではなく、「肉筆浮世絵」という直筆で描かれた作品でした。父が呉服店を経営していたこともあり、着物が身近にあったんですが、花魁や舞妓さんの着物の裾が垂れた曲線が見事に表現されていて、とても驚きました。



森島 梓 (もりしま あずさ)
2005年度 人文学部環境社会学科環境文化コース 卒業
URL <yinyang> https://yin-yang.jp
URL https://tamisa-yoga.com

「選択」が繋ぐ変化

寄稿

Yinyang運営/ヨガインストラクター
森島梓さん

現在の仕事を始めたきっかけ

精華大学を卒業して翌月には渡豪し、憧れの海外へ移住しました。2016年春、10年間に及ぶ海外生活に区切りを打ち帰国。インドネシアのバリ島から、出身地の京都に拠点を移し、現在はヨガのインストラクターと、Yinyangというエンシカルヨガウェアの仕事をしています。今から10年前、インドネシアのバリ島でホテル業に就

いていた頃、「ヨガ・瞑想」というキーワードが頭をかすめ、その数ヶ月後には仕事を退職し、インドのリシケシに向かっています。リシケシではアシラムに滞在し、ヨガと瞑想をインド人の先生から学んだ後バリ島に帰り、そこで現在も師事する Masumi Tagawa という精華大学出身のヨガの先生に出会い、チャクラに特化したヨガを学び、伝えるようになりました。
また同時期、縁あって出会ったのが、現地で草木染めを施した天然素材のヨガウェアを製造するヨガウェアのブランドYinyangを立ち上げた女性でした。Yinyangの運営に関わりながら、国内外で開催されるヨガのトレーニングやリトリートを仕事としてきましたが、コロナ禍で渡航が難しくなってきたから、身近にいる仲間たちと、仕事場から発信する豊かな暮らしづくりがコミュニティ単位で始まりました。

「豊かさ」の提案

Yinyangの仕事では、海外で行うものづくりの背景をトリーサビリティでできるものにし、ZERO WASTE認証を取得し、アップサイクルなどに積極的に取り組んだことで、持続可能な社会に向けた活動を、より具体的にカスタマーに示してきました。
またヨガを指導するスタジオでは、昨年の夏からプラスチックパッケージフリーのマーケットが始まり、地球に優しいお買い物をするところから、コミュニティ単位で、豊かな暮らしについて考え、取り組むようになりました。

みんなが楽しみながらゴミを出さない買い物心がけ、かつオーガニックやフェアトレード、身体や環境へ負担の少ないプラントベースのものを、作り手から直接購入することが可能となりました。

恐怖を打ち消すヨガの教え

目に見えないウイルスへの恐怖を感じる社会の中で、人との繋がりの中、顔の見える関係性において、これまで以上に安心を感じるようになりました。

それ以来浮世絵に興味を持ち、生誕の地であり、花街のある京都で勉強したいと、精華の日本画専攻へ進学しました。

美人画や花鳥風月などの古典的な日本画を学ぶつもりだったんですが、基礎講義以外は、現代風の日本画技法の指導で。想定との違いもありましたが、佐賀ではあまり見ることできなかった現代アートに刺激を受けて、当時はよく見に行っていました。

卒業後は、28歳くらいまで京都に。音楽が好きだったので、ライブの企画や演出をしたり、イラストを描いたり、やはり日本画からは遠のいていました。飽き性なので、もっと違う絵が描きたいと、さまざまなタッチのイラストを描いては、色々なお店に持ち込みをしていました。

その後佐賀に戻り、グラフィックデザインの会社に就職しましたが、やっぱり自分の創作がしたい!と思い仕事を辞め、日本画の初個展をしました。

日本画の「線」に魅せられて

京都で持ち込みをしていたときに、色々なタッチの絵を見て、「結局どういう作家なのかわかりませんね」と、依託販売を断られたことがあるんです。だから、佐賀ではいっそ、自分のできることを示さないといけないと思った。そこでやっと、僕はやっぱり「日本画」が描きたいなって思っただけです。

不思議なもので、個展をきっかけに、デザインの仕事も舞い込むようになりました。色々なタッチで描いていたことで、お客さんのニーズに合わせる事ができる。結果的にはよかったのかなと思います。

依頼されて描くイラストと、作品として日本画を描くときは、ギャップのある表現をするときでも、こだわっているのは、どういふ「線」が引けているか。いかに自分らしい線で描けているかということ。すべては、初めて見た浮世絵の、あの着物の曲線のような美しさが出せているかどうかにつながる。画材やタッチが違って、描くときの意識に差はないですね。

ヨガの教えの中に、「アヒムサハ非暴力」という教えがあります。コロナ禍でのチャレンジが、みんなの暮らしに意識改革と豊かさをもたらし、自分自身にとっての優しい選択が、自分の周囲、また結果地球環境にとっての優しい選択に繋がることが確認できました。
まわりまわって学生時代に選択した環境社会学科での学びが、今、この時代に生きてきているのを日々実感しています。



コロナ禍で自分の日本画について考えたとき、初めて見た人物画の影響の大きさに、あらためて気づかされたんです。これまで日本画のモチーフにしていたのは、花鳥風月ばかり。影響が強かったからこそ、自分が描く人物画で売り物になるのかと不安があったやらずにきていました。でも、この機会にちゃんと向き合おうと思い、人物画を描きはじめました。

日本画とデジタルの融合に取り組む

今後は、「日本画とデジタルの融合」に取り組んでいきたい。デジタルでも直筆に近い表現ができるようになってきたし、クライアントによっては、高価な画材を使わなくて済むぶん、制作費を抑えられるという利点もあります。

逆に、デジタルで描いたものを日本画に置き換えてみることも試みています。もちろん、手描きとデジタル両方を融合してみようというのも、違う質感がつけられたりして面白いですね。

昔から、やりたいと思ったことにはどんどん挑戦してきましたが、行き詰まる時もある。そんなときには一度、「日本画」に立ち返るようにしています。どんな表現でも、重要なのは絵を描くときの基本的な技術。自分らしい線の引き方を意識しながら、常にそれを向上させつつ、色々な見せ方に挑戦していけたらと思います。



『無関心』

収入の部

科目	摘要	予算	決算	差額
前年度繰越金	2019年度より繰越	31,447,435	31,447,435	0
会費収入	2020年度振替	10,070,000	10,410,000	▲340,000
	既卒業生、在学生	0	0	0
	小計	41,517,435	41,857,435	▲340,000
寄付金		0	0	0
受取利息(注1)		1,000	810	190
総計		41,518,435	41,858,245	190

支出の部

科目	摘要	予算	決算	差額
事業費①	会報全般	3,000,000	3,055,919	▲55,919
事業費②	総会 懇親会費	50,000	0	50,000
事業費③	ホームページ管理費・更新費	300,000	147,620	152,380
事業費④	卒業式(花・交通費)	400,000	293,700	106,300
事業費⑤	在学生支援	1,000,000	16,000,000	▲15,000,000
事業費⑥	卒業生支援	200,000	0	200,000
	小計	4,950,000	19,497,239	▲14,547,239
支部補助費	西日本支部	68,000	0	68,000
	滋賀支部	58,000	140	57,860
	東海支部	60,640	370	60,270
	近畿支部	0	0	0
	九州支部	221,000	25,389	195,611
	沖縄支部	58,500	0	58,500
	韓国支部	130,000	0	130,000
	関東支部	50,000	0	50,000
	小計	646,140	25,899	620,241
支部イベント費	西日本支部	0	0	0
	滋賀支部	0	0	0
	東海支部	0	0	0
	近畿支部	100,320	0	100,320
	九州支部	0	0	0
	沖縄支部	70,000	0	70,000
	韓国支部	0	0	0
	関東支部	100,000	0	100,000
	イベント予備費(通信費含む)	0	0	0
	小計	270,320	0	270,320
旅費、交通費	理事会5回、役員会、総会等	1,500,000	45,612	1,454,388
事務局人件費	1名	2,400,000	1,944,911	455,089
会議費	理事会5回、常任理事会等	30,000	4,176	25,824
通信費	発送費等	20,000	4,318	15,682
事務費		20,000	71,106	▲51,106
慶弔費		30,000	0	30,000
振込手数料		70,000	0	70,000
予備費		100,000	0	100,000
小計		4,170,000	2,070,123	2,099,877
次年度繰越金		31,481,975	20,264,984	11,216,991
総計		41,518,435	41,858,245	▲339,810

※収入の部の▲印は予算額より決算額の増額を、支出の部の▲印は決算額の予算超過を意味します。

支部補助金繰越明細

西日本支部	68,000	注2
滋賀支部	57,860	注2
東海支部	60,270	
関東支部	50,000	
近畿支部	0	
九州支部	195,618	注2
沖縄支部	58,500	
韓国支部	20,500	
小計	510,748	

大学口座繰越分	19,209,174
---------	------------

ゆうちょ口座	403,289
--------	---------

受取利息計	2	九州支部分。ただし前年度分▲1円を除く
-------	---	---------------------

資金有高	20,264,984
------	------------

注1. 各支部受取利息

大学	803
本部	4
九州支部	3
小計	810

注2. 本部から各支部への未入金額

九州支部	22,932
滋賀支部	8,267
西日本支部	8,890
小計	40,089

支部イベント費残高繰越明細

東海支部	39,910
韓国支部	69,700
九州支部	72,250
小計	181,860

本部未送金分	▲40,089
--------	---------

木野会は2021年度の在学生支援事業として、「京都精華大学展 2022 卒業・修了発表展」への支援を行いました。この卒業・修了発表展は2017年度から大学キャンパス内で実施されており、今年度は京都府が新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止重点措置の指定地域の期間中に2022年2月16日から20日まで開催されました。

木野会からの支援金は、新型コロナウイルスによる感染予防対策の一環として特設サイトでの入場予約システムの運用資金や受付に配置したサーマルカメラのレンタル、学内の誘導看板等に加え、「木野会賞」の賞金に充てられました。

受賞者には3月21日の卒業式・学位授与式の際に賞が授与されます。

木野会賞受賞者は次の通りです。おめでとうございます。

- 高橋 諒 さん（芸術学部造形学科）
「カムイ＝」
- 小山佳奈 さん（デザイン学部ビジュアルデザイン学科）
「目に見えない実体」
- 吉田愛理 さん・井上岳士 さん（マンガ学部アニメーション学科）
「まちかど探訪奇譚」
- 横田 樹 さん（ポピュラーカルチャー学部ポピュラーカルチャー学科）
「風景写真が与える環境音楽の自的創造」
- 中村里穂 さん（人文学部総合人文学科）
「聾教育と手話の歴史 ーろう者と共に生きるための教育へに向けて」



京都精華大学展 2022 卒業・修了発表展の様子

木野会常任理事役割

役職	担当者	経歴
会長	永井 利行	092L、2021年度より木野会会長
事業担当	藤森 千景	078D、木野会常任理事
事務担当	竹田 亨	094D、2014年度より木野会常任理事
財務担当	舟津 潤	098L、2019年度より木野会常任理事
広報担当	北洞 美智子	085E、2020年度より木野会常任理事
	永田 千晃(理事)	098T、2021年度より木野会理事

2021年度専任教員退職者

- 【専任教員】 芸術学部造形学科 ●小西 通博(日本画専攻) ●内田 晴之(立体造形専攻) ●上野 真知子(テキスタイル専攻) ●武蔵 篤彦(版画専攻)
- マンガ学部マンガ学科 ●下村 富美(ストーリーマンガコース)
- ポピュラーカルチャー学部ポピュラーカルチャー学科 ●中伏木 寛(音楽コース)
- 人文学部総合人文学科 ●三上 賀代(歴史専攻) ●堤 邦彦(文学専攻)
- 国際文化学部グローバルスタディーズ学科 ●稲賀 繁美(グローバル関係専攻)

- 【専任職員】 ●草野 仁之(総務グループ)

木野会 支部

木野会は1988年に設立してから34年。現在の会員数約24,600人。7つの支部を展開。あなたも年に1度は、木野会の活動にぜひ参加してください！
まずはお住い最寄りの支部窓口まで。他地区の支部イベント参加も大歓迎です！

関東支部

✉ seika_kantou@yahoo.co.jp

支部の主な行事

東京散歩・食品サンプル作り、高尾山登山、ポーリング、バスツアー、成田ゆめ牧場 など



支部長
宮脇 誠

東海支部

✉ kugibat4649@yahoo.co.jp

支部の主な行事

東海支部イベントとして団体でしか参加できない様な体験学習(企画・ワークショップ) など



支部長
永井 利行

滋賀支部

✉ onelove_yu@yahoo.co.jp

支部の主な行事

7月しがらき火まつり(たいまつ奉納に参加)、12月支部会議 忘年会 など



支部長
北井 和歌子

西日本支部

✉ gate@chorus.ocn.ne.jp

支部の主な行事

非公式「瀬戸内国際芸術祭」ツアー など



支部長
秋山 誉夫

九州支部

✉ east_river_up@yahoo.co.jp

支部の主な行事

四役会議(年2回)、支部イベント会議(年1~2回)、隔年で「木野Q展」と「支部イベント」 など



副支部長
齋藤 洋明

沖縄支部

✉ ryukyuseika@gmail.com

支部の主な行事

沖縄在住の精華卒業生で不定期に集まって近況報告を兼ねた呑み会 など



支部長
小野 晃生

韓国支部

✉ jineex@gmail.com

支部の主な行事

総会(年1回、総会議)、イベント(年1回、文化体験)、新年会、文化・芸術活動(展覧会) など



支部長
李 進熙
イ ジンヒ

! その他の地域の皆さまへ

お近くに支部がない場合は、木野会本部までお知らせください。今後、会員からの要望があれば、北陸、中部、東北、北海道地区での支部の設立も検討したいと考えています。また近年、母校では留学生の数が増えていますので、台湾支部の復活など、海外支部の立上げも検討しています。

お問い合わせ先 kinokai@kyoto-seika.ac.jp(木野会事務局)

お問い合わせ 同窓会へ参加したい方、会報誌掲載企画のご要望など、お気軽にお問い合わせください!

京都精華大学同窓会「木野会」

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137(学校法人京都精華大学 経営企画グループ内)
TEL. 075-702-5201 FAX. 075-702-5391 MAIL. kinokai@kyoto-seika.ac.jp



● 会員情報の変更 ● 木野会総会のご案内 はウェブサイトから <https://seikajin.com/>

SNS
更新中!



Facebook



Twitter



Youtube
「木野会きのちゃんねる」

Facebook <https://www.facebook.com/seikakinokai/>

Twitter <https://twitter.com/seikakinokai>

Youtube「木野会きのちゃんねる」 https://www.youtube.com/channel/UC_NoXK5ZbBQ3vpVI5onY6Lg/featured